



## 三次神経内科クリニック 花の里



## Vol.5 2015. 秋号

— ご挨拶 医療法人微風会 三次神経内科クリニック花の里 院長 伊藤 聖 —

高齢化社会を反映して認知症患者は急増しており、厚生労働省の算出したデータによると、団塊の世代が 65 歳以上になる 2015 年には 302 万人、さらに今の 40 代が 65 歳以上になる 2035 年には 445 万以上に増加すると推計されています。それゆえ、認知症の急増に対する予防および早期発見・治療が大切であると考えられます。

当認知症疾患医療センターは、広島県に保健医療・介護機関との連携、認知症疾患の保健医療水準の向上を目的に設置された、6 つの医療機関の一つとして 2013 年より活動をスタートさせました。三次市を中心とした備北地区の中心的医療機関として、地域の医療・介護関係者との連携をはかりつつ、情報の共有や関係者の研修、一般の方々への情報発信や啓蒙活動なども含め、幅広く活動の輪を広げつつあります。また県内で最も広い地域を受け持つ拠点として、三次地区医師会・三次市行政、庄原市医師会・庄原市行政が中心となり備北地域における認知症疾患医療センターとの活動を共にリンクさせ、さらにみなさんへのサービスを向上させるべく努力しています。

医学の進歩によって、昔の方々に比べると、私たちの「老後」と呼ばれる時間は飛躍的に長くなってきました。その時間をより大切に過ごしていただくために、私たちはこれからの高齢者の暮らしに寄り添い、認知症の方もその家族も安心して生活できる地域づくりをめざしていきたいと考えています。

### 認知症研修会を 実施しました！

2015 年 7 月 11 日（土）に三次市福祉保健センターふれあいホールにて認知症研修会を開催いたしました。研修会では、一般財団法人 住友病院 内科系副院長（神経内科） 宇高 不可思 先生に「血管性認知症について～診断、予防、治療から合併症、介護まで～」と題し、血管性認知症について演題のとおり様々な話題についてお話頂きました。また、ビハーラ花の里病院 神経内科部長 織田 雅也より、「ビタミン欠乏と認知症」についてもお話させて頂きました。当日は、多くの関係機関・地域の方々が参加してくださいました。

今後も、皆様にとって有用な情報が提供できるよう、定期的に認知症研修会を実施してまいります。その際は、ぜひご参加ください。





## 初診への想いについて



「もの忘れがあるから病院へ行った方がいい！」と言われ、二つ返事で受診する人は多くありません。痛いとか痒いとかの症状とは異なり、“頭の中を診る”事に対する不安と戸惑いは個人差はあれど誰もが抱える問題ではないでしょうか。判断や理解が少しずつ苦手になってくるとその不安は更に大きくなります。その様な思いを私達医療機関は如何に受け止めて行けば良いのか日々模索しています。そこで、今回は皆さんに“受診時のお願い”としてメッセージを寄せさせていただきます。

### ○ご本人へ・・・

自分の意志で受診されたのではないかも知れませんが、日常生活の中で恐らく「あれ？何かおかしいな。」とか「以前は簡単に出来ていたのに。」「忘れっぽくなったかな？」などの気付きはあります。そんな不安を思い切り打ち明けて欲しいのです。普通の人々が普通に物忘れをします。それが病気かどうかを調べるのは大切な事です。もしも、“認知症疑い”と言われたらそこからスタートです。これからの人生をどう頑張ればいいのか…微力ですが少しでもそのお手伝いをさせていただきます。安心して受診して下さい。

### ○ご家族へ・・・

本人の行動や言動などに対して様々な見解をお持ちだと思います。あれも気になる。これも心配。どうすれば良いのか…と不安を抱えての受診に対し、先ずはしっかりと本人の生活状況を聞かせて下さい。実際、生活の中で困惑している故の受診である事が多いので、失敗談とかイライラした事など、本人の駄目な部分にばかり話しが集中してしまいます。皆さん対応に苦慮されていると思いますが、ここでもお願いがあります。本人の“良いところ”や“好きなところ”“こんな事はまだ出来る”などの情報を頂きたいのです。本人は自分の事を誰よりもわかっているし、日頃家族から色々指摘されている（マイナス面が多い）と思われるので、診察室では是非、本人を褒める言葉を添えて欲しいと思っています。

### ○医療機関へ・・・

治らず進行する認知症に特效薬はないとは言うものの、治療が終わったわけではなくむしろ始まりであり、今後本人や家族を見守りながら付き合っていく“覚悟”を私達医療機関は認識する必要があります。薬や注射で治らない病気に必要なものは何かを常に確認しながら対応を検討して行かなくてはなりません。適切な鑑別診断が必要なのは、薬の使用可否を決める為だけではなく、認知症の種類によって対応が異なる事を理解するきっかけにもなるからです。（早期受診のメリットでもあります。）日々の診療の中では、本人や家族の話にじっくり耳を傾ける時間は取りにくい場合もありますが、最も必要である事には違いありません。精巧で高価な画像検査でも本人の想い・感情や環境までは写し出す事が出来ません。問診が診断の大半を占める要因である由縁でしょうか。

三次神経内科クリニック花の里

主任看護師 武内 壽磨子



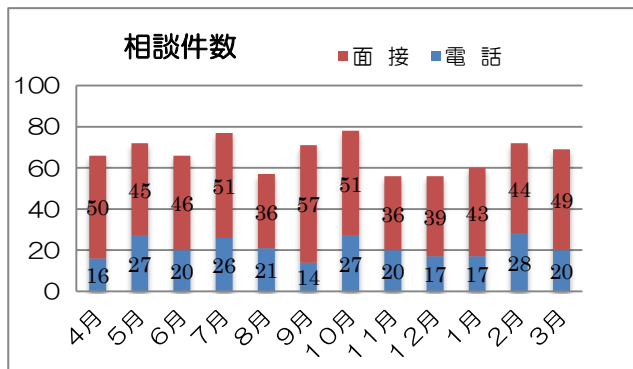
# 平成 26 年度実績報告



平成 26 年度の実績を報告致します。

## 【相談件数】

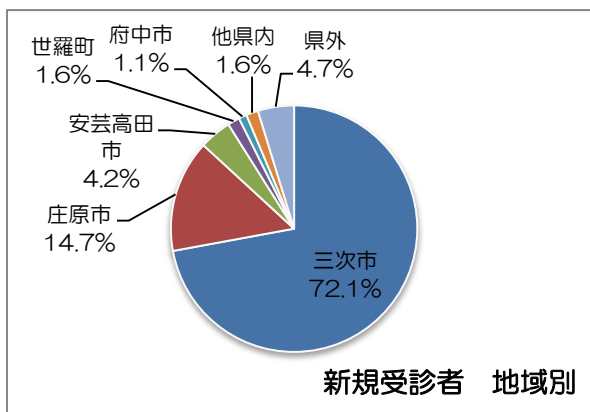
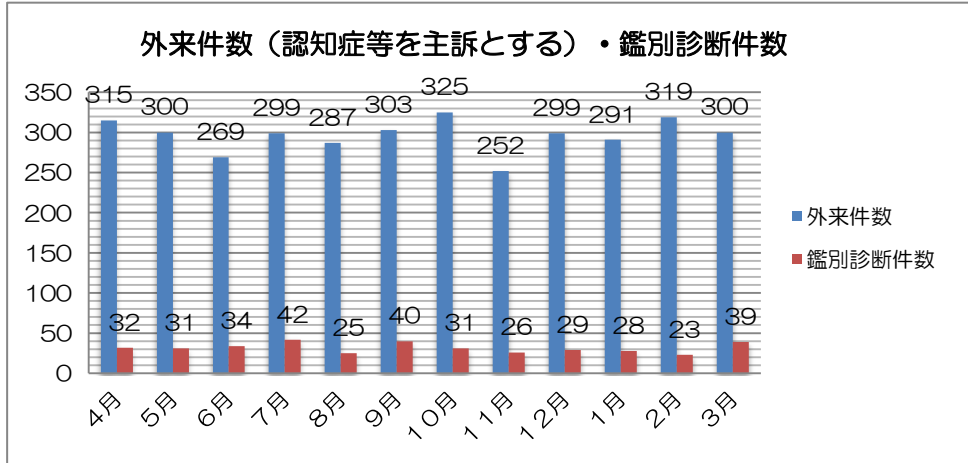
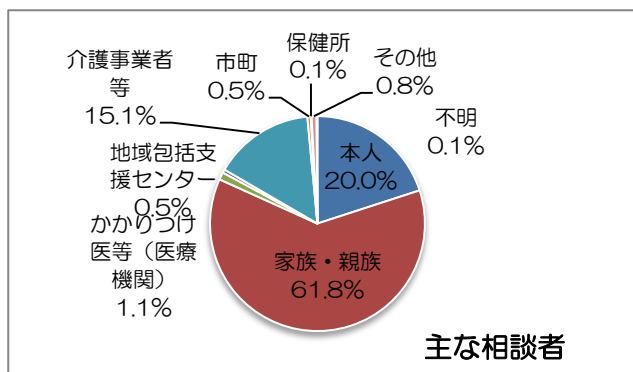
相談件数は右記のとおりです。当センターでは、面談の件数が多いのが特徴です。受診の機会などを利用し、ゆっくりとお話を伺える時間を設けるなどの工夫もしております。そのため、主な相談者は「本人」や「家族・親族」が 8 割を占める結果となっています。相談内容につきましては、「医療相談」や「介護相談」が多くを占めております。



## 【外来件数（認知症等を主訴とする）

### ・鑑別診断件数】

認知症等を主訴として外来を受診される患者さんのうち約 1 割の方が新規に受診され、鑑別診断を受けて頂いた患者さんになります。新規に受診された患者さんの 7 割は三次市の方。その他隣接する、庄原市や安芸高田市の方、島根県の方も多く受診されています。



## 【その他】

- 講演会・研修会の実施
- 認知症疾患医療連携協議会の開催
- 広報誌の発行
- 研修会などの講師
- ケア会議への参加 など



認知症についての相談・ケア会議への参加、講師派遣依頼など何でも気軽にご相談ください。

## 一 認知症疾患医療センター（診療所型）とは 一

患者さん、ご家族の相談や、医療機関、介護施設などからの紹介があった患者様に

対して確定診断をおこない、必要に応じて初期治療を行います。

また、当地域で研修や情報発信をおこない、関連分野の連携に寄与します。

### 【事業内容】

#### 1. 専門医療相談

認知症に関する困りごとや悩み、不安に関する相談に電話・面談にて対応します。

患者さん、ご家族からの相談に専門の職員が対応しております。

#### 2. 鑑別診断とそれに基づく初期対応

問診・検査等を実施し、認知症の有無や進行の程度、原因やタイプなどの鑑別診断をおこない、今後の治療方針について説明をおこないます。

#### 3. 合併症・周辺症状への急性期対応

身体合併症及び周辺症状の急性期治療については、地域の専門医療機関、一般病院や精神科病院等へ紹介させていただきます。

#### 4. 研修会の実施

認知症疾患に関わる医療・保健・福祉関係者向け、もしくは市民向けの研修会を実施します。

#### 5. 認知症疾患医療連携協議会の開催

地域の医療機関、地域包括支援センター等の関係機関との連携を図っていきます。

#### 6. 認知症医療に情報発信

認知症に関する正しい知識をご理解いただくための情報発信を行ってまいります。

### 認知症相談専用電話窓口を設置しております

【時間】 9：00～12：00・14：00～17：00（月～土 祝日・休診日を除く）

【電話】 0120-870-318（相談窓口専用電話）※看護師等が対応致します



医療法人微風会  
三次神経内科クリニック花の里  
〒：728-0013  
広島県三次市十日市東 4-3-10  
TEL：(0824) 63-0330  
FAX：(0824) 63-0331